

ウキヤク 浮役 ↓コモノナリ 小物成。
ウキヤコバシ うきやこ橋 金澤卯辰愛宕山の坂下なる江川の橋であつたが、今は絶えて無い。

ウキヤナギ 浮柳 能美郡粟津郷に屬する部落。

ウグヒスタニ 鬻谷 金澤の街端卯辰山の幽谷で、昔は鬻の名所であつたからの稱である。今此の邊を鬻町といふ。

ウグヒスノキ 鬻の井 河北郡鈴見にある清泉で、名水として茶人に用ひられた。井筒の傍に碑を建て、鬻の井と刻するが、名義は詳かでない。

ウグヒスマチ 鬻町 ↓ウグヒスマニ 鬻谷。

ウケ 宇氣 ↓ウノケ 宇野氣。

ウケサク 請作 ↓オロシサク 御作。

ウケタカシンカイ 請高新開 ↓シンカイ 新開。

ウケトリビケシ 請取火消 藩政時代に特定の場所の火災消防に當る職をいひ、御宮請取火消・御佛殿並別當屋敷請取火消・三箇寺請取火消・聖堂並學校請取火消があつた。

(一)御宮請取火消―城内東照宮の消防に當るもの。一人役で萬石以上の人持、或は止むを得ざれば以下の人持、或は未だ月番加判を命ぜられぬ年寄衆が任せられた。横山左衛門・奥村伊豫・小幡宮内・津田玄蕃・横山監物と相繼ぎ、正徳二年には村井主膳が之に當つた。
(二)御佛殿並別當屋敷請取火消―金澤城外に在る徳川氏廟所の消防に當るもの。長九郎左衛門・奥村内記・前田主税と相繼ぎ、正徳二年今枝民部直方が之に命ぜられ、一人役で大身

の人持から動めた。

(三)三箇寺請取火消―前田氏廟所寶圓寺・天徳院・如來寺の消防に當るもの。一寺二人宛、半月交代に人持から動めた。元祿三年六月九日青山將監長立・中川采女長輝・成瀬内藏助當隆・本多圖書政冬・伴八矢長裕・津田宗七重和が命ぜられたに起る。この頃は寶圓寺請取口等といつて、後世とは名稱が違つてゐた。

(四)聖堂並學校請取火消―學校及び附屬天満宮の消防に當るもの。寛政四年閏二月二日成瀬内藏助當隆・青山將監惠次が命ぜられたに起り、爾後二人役として連綿した。

ウコウ 羽紅 ↓ミヤギウコウ 宮城羽紅。
ウサイシシユウ 迂齋詩集 成瀬當職の作で、現存のものに天保辛卯詩集と同じ己詩集とがある。辛卯集に載する所凡そ百八十二首、林孫坡・横山致堂等との唱酬が多く、己亥集は百八十一首、多々良西臯・野村空翠・長井葵園・森西園・柳原逸翁等との交渉が多い。

ウサギバシ 兎橋 能美郡小松に在る。初め兎橋神社の鎮座した所であるから、この名がある。前田利常居城を小松に定めた時、神社を今の所に轉ずる爲、舊地に井戸を掘つて、その土を新たに遷座の所へ移したといはれる。

ウジ 宇治 珠洲郡三崎郷に屬する部落。能登志徴に、慶安五年堀彦太輔郡廻の書付に、『宇治引砂村と申處に三四反荒御座候』とあるから、當時宇治引砂といふ一村であつたのが後に分離したのであらうと記する。

ウシイシ 牛石 石川郡鶴來金劍宮前にあつて、積大の石である。昔近郷の嫉妬深き女がこの宮に其の時參をしたが、そのまゝ石になつたものであると傳へる。

ウシエモンバシ 牛右衛門橋 金澤橋梁記に、『牛右衛門橋、油車』とあつて、倉月用水に架けられた橋である。その名稱は昔岩谷牛右衛門の邸地に近かつたによつて起る。

ウシエモンバシマチ 牛右衛門橋町 金澤の舊町名。牛右衛門橋附近をいひ、元祿の頃は安房殿町とも呼んだ。文政四年町名改革の時、丸田町と改めたが、明治四年四月戸籍編成の時、油車の舊稱に復した。

ウシオロシ 牛下 羽咋郡熊野方郷に屬する部落。
ウシガイケ 牛ヶ池 江沼郡黒崎に在る。江沼志稿に、牛ヶ池一名西油は黒崎村領に在る。昔時牛の形に似る獸がこの池に現れたとがあると記される。

ウシガクビ 牛ヶ首 羽咋郡大笹の内の小字。
ウシガクビタウゲ 牛ヶ首峠 能美郡御保谷から丸山又は新保へ越える峠。高さ四一〇米。
ウシガハナ 牛ヶ鼻 鳳至郡岩車と鹿波との間に在る岬。

ウシガハナイハ 牛ヶ鼻岩 江沼郡片野に在る。芝憩紀聞に、この村の海邊に牛ヶ鼻として高き岩がある。昔はその頂六尺四方も平らかで、草生茂り、登臨するに適して居たが、今は崩れて錐先の如くなつたとある。

ウシガハナカンノン 牛ヶ端觀音 鹿島郡田鶴濱に在る。能登誌に、『田鶴濱西の入口に牛ヶ端として觀音堂あり。當國廿二番順禮札所にて、昔は上の山浦ヶ嶺に有しを、長家田鶴濱居住の比、今の牛ヶ端といふに山を築き觀

音を移す。そのかみは奥方の歸依甚しき靈像なり。』と記する。

ウシガハナサカ 牛ヶ鼻坂 江沼郡會宇に在る。芝憩紀聞に、この村の奥に牛ヶ鼻坂があつて、方石を産するとある。

ウシクビ 牛首 能美郡山内庄の白山々麓に在る部落。もと牛頭天王を祭つたから牛頭といひ、中古牛首の字に改めたといふ。明治の初め白峰と改め、次いで風嵐を併合した。

ウシクビ 牛首 石川郡金浦郷に屬する部落。
ウシクビ 牛首 羽咋郡押水大海庄に屬する部落。
ウシクビガハ 牛首川 能美郡白山の西南麓に發する柳谷川・湯谷川等の水は市瀬に至つて相合し、赤岩で更に一支流を入れ、これから牛首川の名を有し、風嵐・白峰(もと牛首)・桑島(もと島)・深瀬・釜谷・五味島・東二口(もと二口)・女原・佛師野を經、木滑新で尾添川を入れるに及んで手取川の名を得る。

ウシゴメテイ 牛込邸 江戸市ヶ谷門外尾張侯の邸に接續する加賀藩邸で、面積六畝歩に互つた。その賜邸の年紀を明らかにせぬが、初め前田綱紀が中屋敷を有しなかつたから、祖父利常が故光高の後室清泰院を通じて幕府から之を得たもので、綱紀の襲封した正保二年の頃であらうとせられ、邸内には清泰院從屬の微臣及び藩の證人として幕府に委した重臣の子弟等を置いてあつた。既にして明曆二年九月清泰院は歿したが、この邸を未だ上地としたのではなかつた。然るに幕府は翌年之を尾張侯に與へたから、利常はその處置の不當を怒り、使者を閣老松平信綱に遣はし

ウキ―ウシ